

## 「京都暮らしの音と映像」

(通年)

受講生8人が2グループに分かれ、それぞれにテーマと取材対象を話し合い、NPO法人「京都の文化を映像で記録する会」(京文映)の方たちに技術的・精神的に支えてもらいながら、「京都」に関する1本のドキュメンタリー番組を制作しています。

## A班

## 「鴨川を見つめて」

取りたい映像も、価値観もまったく異なる4人が集まったA班は、まず、テーマを絞ることから苦戦しました。映像に対する知識や理解度、対象の捉え方、また作品に対して求めるものなどそれぞれが異なった意見を持ち、ばらばらだった4人が唯一共通して持っていたもの、それが「鴨川に対する魅力」でした。繁華街と隣接して存在する鴨川には、周囲の町から切り離された独特な世界が感じられます。京都で過ごす学生なら誰も鴨川に何らかの魅力を感じているのではないのでしょうか。

私たちは「鴨川の魅力」をテーマに掲げ、鴨川に集うさまざまな年代の人々にインタビューを行って来ました。また、ポンテザールの橋の問題で活躍された木村万平さんや先斗町でお店を営んでいらっしゃる柴田さんにもお話をうかがい、鴨川に関して多くのことを学びました。京都の顔とも呼べる鴨川は、長い歴史をもち、またその中で文化を育んできた珍しい川です。時代の移り変わりの中で、鴨川を取り巻く環境は大きく変化しました。しかし鴨川は、今も変わることなくそこにあり続け、多くの人々が鴨川に集って来ています。その鴨川の普遍的とも言える魅力に迫るため、今まで撮影を行って来ました。撮影においては、NPOの「京都の文化を映像で記録する会」の方々にご指導をいただき、長年プロとして映像に関わってこられた人ならではの、鋭いご指摘やアドバイスをい

ただき、大変勉強になりました。この活動を通して、私はひとつの作品をまとめていくことの大変さ、また何より映像で自分たちの表現したいものを表すことの難しさを痛感しました。また鴨川を見つめて、改めて京都という町の持つ魅力に気づかされました。7月から始まった撮影も終了し、これからは編集の段階を迎えます。

鴨川の持つ独特の世界や魅力が伝わるよりよい作品にするためこれからも努力していきますので、4月に予定している上演会にはぜひお越しください。お待ちしております。(文責・文学部2回杉山奈津子)

## B班

顔合わせ、映像の座学、話し合い、班分け、構成台本作り、全体親睦会、中間発表と過ぎ去った春学期。

「学生町京都の学生が撮りたい!!」「嵐電沿線が撮りたい!!」「祇園が撮りたい!!」「特定の人物を通して、京都の二面性を描き出したい!!」様々な「思い」が交錯する中、怒涛の秋学期が始まった。どうしてこの思いが伝わらないの? どうせやるならもっと面白い映像を撮ろうよ! ねえ、やるならちゃんとやってよ! 資料集めやロケハン(現場の下見)と並行で話し合いは進められ、一転二転、新しい構成台本が出来上がる。

そして10月13日、撮影開始。カメラマン、監督、製作、音声の役割に分かれ、いざ京都駅へ。始めは慣れないことやとまどうことが多く、許可を取らず警備員に追い返されたりして、要領を得なかった。が、鴨川べりを撮り、錦市場で豆屋のおばちゃんにインタビューをし、京都拠点の会社をロケハン車で駆けずり回り、三条大橋でファイヤーダンスにみとれ、EVE祭を撮影し、京都在住のモンゴル人留学生に話を聞き、烏丸御池で待ち行くサラリーマンを撮り、出町王将のおっちゃんの話に感激し、と撮影を重ねるうちに段々と慣れてきた。

12月8日に今出川のツリーを最後に撮影を終えた。この2ヶ月、本当によく駆けずり回った(気がする)。カメラ・三脚を持って。話し合いやロケハンにもかなりの時間を費やした。次に僕たちを待っているのは編集作業だ。ビデオを何回も見ながら、監督を中心にみなで映像イメージを固めながら、絵のつなげ方を練っていく。そして、エディットシート(編集の青写真)を頼りに、京文映の事務室でパソコンと向き合って缶詰になっての編集作業。4月の上映会に向けて、がんばっていかねばならない。

僕らの班は3回生が3人で、就活とも重なるし、みなそれぞれに忙しい。だけど、メンバーで話し合いながら形あるものを作っていく作業は本当に楽しい。映像というツールも非常に魅力的だし、京文映のメンバーとの交流もとても刺激的だ。

受講して後悔しているメンバーはいない。興味のある方は報告会ならびに、上映会に是非! (文責・文学部3回藤本賢司)

## 映像作品「嵐電沿線を往く」最終版・北野線の旅人をやっています。

プロジェクト科目はとっていないが突然の話に「何か学びが潜んでいる」と思い、次の日に監督と面接、そして即決。

京文映の企画製作で嵐電の各駅の由来や隠れた名所などを紹介する。紅葉シーズンは穴場を発見する良いぶらり旅である。撮影の中でも特に「了徳寺の冬の大根炊き」が印象的。場所だけでなく、知らない行事が京都にはまだまだ潜んでいる。また、撮影を通して映像制作の難しさと監督のこだわりを実感した。「はんなり」とした京都らしさをナレーションでも表現したい。

(文3/ 早瀬泰子)

## ■プロジェクト科目成果報告会

1月23日/

■上映会:4月頭(予定)